



元気っ子通信

No.64

平成 28 年 9 月 1 日発行

夏休みも終わりました。

長い時間を子どもたちと過ごすといろいろなこと、いろいろなところがわかり、見えてくるものです。

夏休みの宿題のやり方を見ているだけで、一人ひとりの中身が見えてきます。だらだらと宿題をする子は遊びにも集中力を欠きますし、身辺整理もいい加減です。反対も言えます。子ども時代に遊びに夢中になれた子は何にでも真剣に取り組めます。

いつもいつも書いてしまうのですが、毎日の生活を丁寧にするのを心がけていくことがすべてに通じてきます。そうすることで字もきれいに書く、持ち物も丁寧に扱う、身のこなしも綺麗になっていきます。どんなに格好良くしても中身がなくては本物ではありません。

生活の一つひとつを丁寧にしていくことをこころがけていきましょう。

朝、学童に来て「おはよう」と気持ちよくあいさつができる子は半分もいないくらい。毎朝、子どもに「おはよう」の声掛けで始まる夏休みでした。少しずつ出来るようになってきましたが、まだ知らんぷりの子が何人かいます。一人で人は生きていけません。いろんな人と関わる時の大切な手段が「あいさつ」です。相手の顔を見てあいさつするようになってほしいと思います。これをこころがけていけば「いい仲間」が自然と集まって来るものです。

この夏は甲子園とリオのオリンピックにくぎ付けでした。猛暑の中での高校球児のプレーに感動し、また世界一を競う一人ひとりの競技に涙したり、拍手したりしてたくさん元気をもらいました。並大抵の頑張りや努力でできるものではないです。持って生まれた才能もあるでしょうが、「もう頑張れない」「いくらやっても無理」「わたしにはできない」と負けそうになってもそれを乗り越えてがんばる精神力があるからです。この精神力は小さいころからの生活（遊びを含んだ）の中で育てられてきたのだらうと思います。周りの大人がどう励ますかが「鍵」だと思います。

子どもへの言葉かけは、「こころ」という時を見逃さずに!!!

夏休みに感じた事を書きました。

以 上